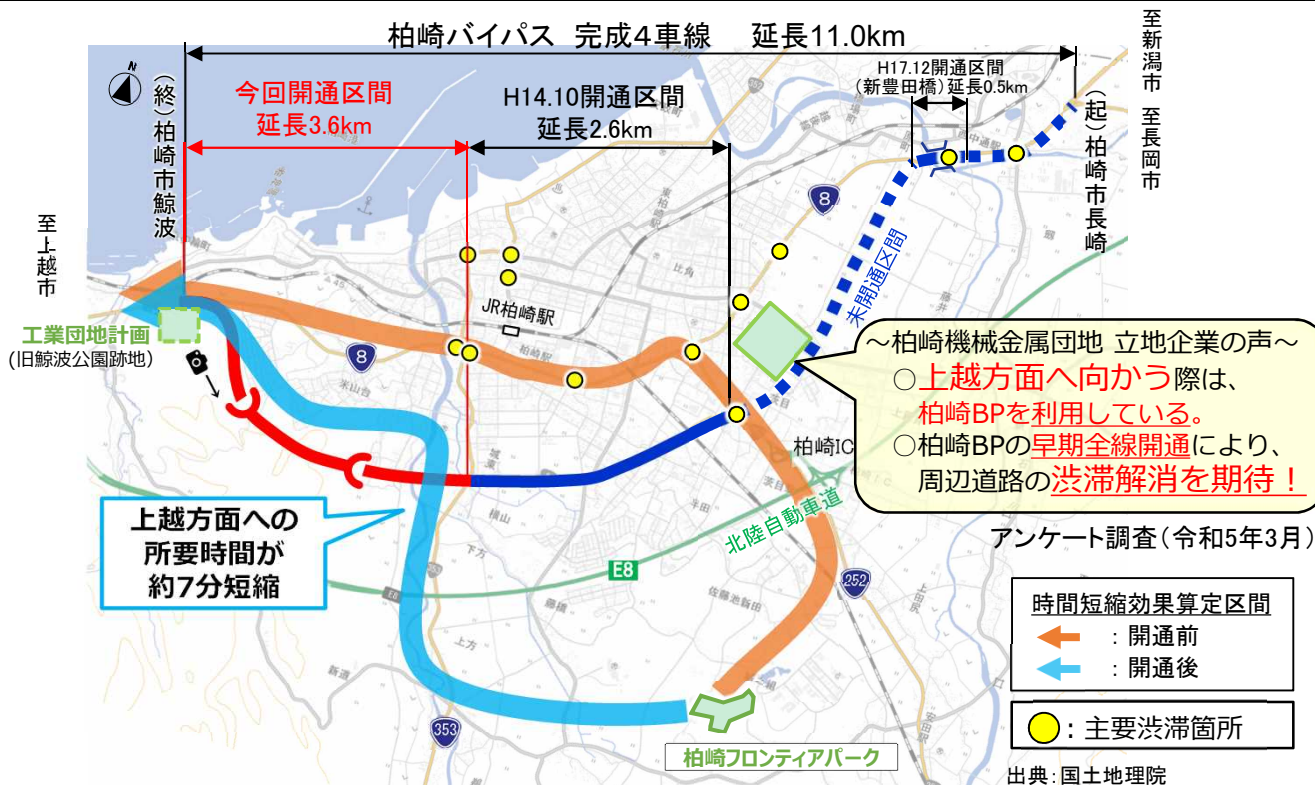


整備効果①

地域産業支援：産業団地からの製品輸送効率化

- ▶ 柏崎フロンティアパークは、ものづくり産業の拠点として整備された産業団地です。
- ▶ 今回の開通により、柏崎フロンティアパークから上越方面へ輸送する際に、主要渋滞箇所を回避でき、アクセス性が向上(約7分短縮・旅行速度9km/h向上)しています。
- ▶ 立地企業からも、製品輸送の便が良くなったとの声が聞こえています。
- ▶ 柏崎バイパス終点部には、工業団地の整備計画も進められており、引き続きバイパスの全線整備を促進し、柏崎地域の産業の発展を支援していきます。



【市街地部の渋滞回避による時間短縮効果】

(柏崎フロンティアパーク → 柏崎BP終点部) 単位:分



開通前: ETC2.0データ (2022年7月 昼間12時間平均)
開通後: ETC2.0データ (2023年7月 昼間12時間平均)
グラフ中 () 内数値は、昼間12時間の平均旅行速度



開通区間(撮影日: 令和5年10月17日)

【柏崎フロンティアパーク立地企業の声】



- 原材料は、柏崎市、長岡市、上越市、十日町市から受入しており、生産品は、柏崎市、上越市、新潟市などに出荷しています。
- 柏崎バイパス開通後はバイパスを利用するルートに変更しており、**上越方面への商品輸送の際の便が良くなりました。**
- 時間短縮を実感**しています。

ヒアリング調査(令和5年10月)

整備効果②

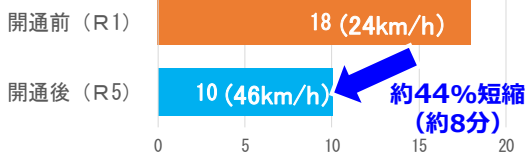
観光支援：海水浴シーズンの交通混雑緩和

- ▶ 柏崎市の季節別観光入込客数は、夏に海水浴を目的とした入込が最も多く、そのうち約8割は県外客となっています。
- ▶ 例年、海水浴シーズンには柏崎ICから鯨波方面への海水浴場へアクセスするため、現国道8号においては交通混雑が発生していました。
- ▶ 今回開通区間を利用することにより、柏崎ICから鯨波海水浴場へのアクセス性が向上(約8分短縮・旅行速度22km/h向上)しており、海水浴シーズンの交通混雑が緩和されました。

【市街地部の渋滞回避による時間短縮効果】

(柏崎IC→鯨波海水浴場 (AM10:00~11:00))

柏崎IC→鯨波海水浴場 所要時間 単位:分



時間短縮効果算定区間

- ← 開通前
- ← 開通後

● : 主要渋滞箇所

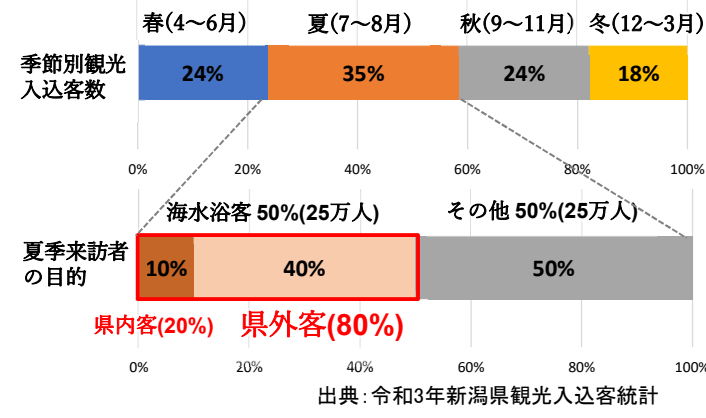


・開通前：ETC2.0データ(令和元年7月末～お盆期間の休祝日、且つ最高気温30℃以上、混雑時(AM10:00~11:00))

・開通後：ETC2.0データ(令和5年7月末～お盆期間の休祝日、且つ最高気温30℃以上、混雑時(AM10:00~11:00))

・グラフ中の()内数値は、混雑時平均旅行速度(AM10:00~11:00)

【柏崎市における季節別観光入込客数の内訳(令和3年度実績)】



観光協会の声

○令和5年は鯨波海水浴場へ関東方面からの車利用の入込客が多い状況でした。

○柏崎ICから市街地を通らない柏崎BPを利用することで、鯨波方面の海水浴場へのアクセス性が良くなったと思います。

ヒアリング調査(令和5年9月)

【開通前後の交通状況】



救急隊員の声

○今年には水難事故はありませんでしたが、鯨波地区から柏崎総合医療センターへ行く際は、柏崎BPを利用することで搬送時間が早くなったと感じています。

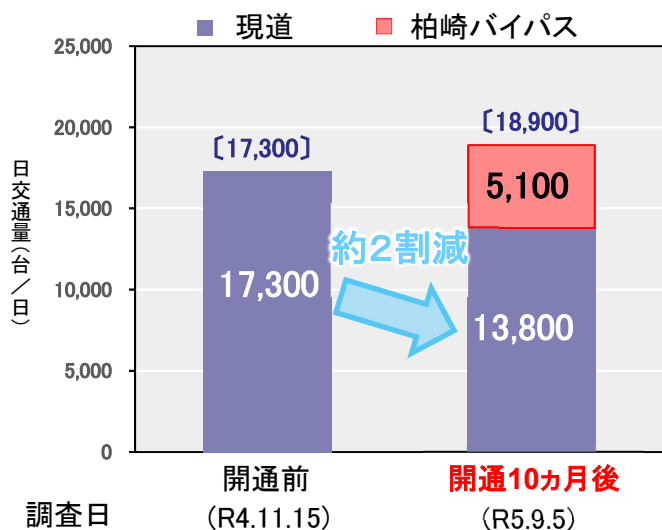
ヒアリング調査(令和5年9月)

【柏崎バイパス・現道区間の交通量】

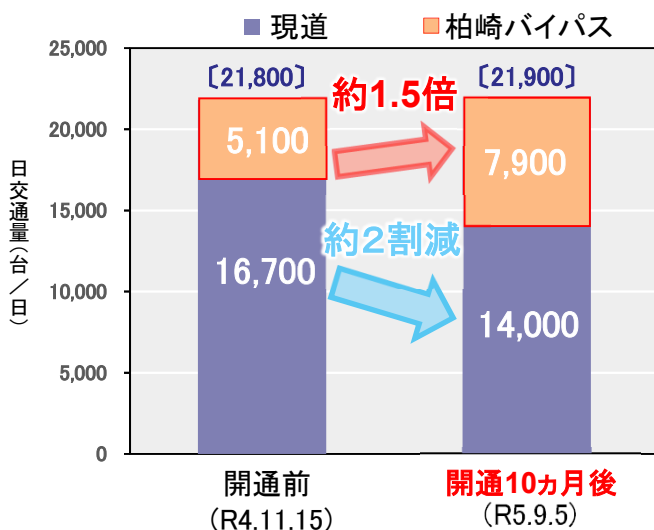
- ▶ 今回開通区間と並行する現道8号を比較したA-A断面では、今回開通区間の交通量は約5,100台/日となり、断面の合計交通量が増加する一方で現道の交通量が約2割(約3,500台/日)減少しました。
- ▶ 既開通区間と並行する現道8号を比較したB-B断面では、断面の合計交通量は大きく変化していませんが、バイパス交通量は約1.5倍(約2,800台/日)増加しており、バイパスの利用促進が図られています。

【交通量の変化】

今回開通区間(A-A断面)



既開通区間(B-B断面)



・交通量は上越方面、長岡方面双方向の交通量の合計
 ・[]内の数字は断面の合計交通量

